

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400315		
法人名	医療法人 一心会		
事業所名	グループホームよりあい		
所在地	高知県吾川郡仁淀川町岩丸43-1		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、母体法人の病院が徒歩一分の所に有り、また、周りは緑と清流の自然の中、ご利用者は日々、季節の風を感じ、生き生きとご自分のペースで過ごされています。そんな中、いつも聞かれる言葉が『笑門来福！』…私達職員も、気持ちを共有し一緒に楽しみながら、笑って過ごせる時間を大切に活動性のある毎日をご利用者と共に過ごさせていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JgwsyoCd=3972400315-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JgwsyoCd=3972400315-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年12月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービス事業所の趣旨に沿い、地域へ積極的に発信することに努めている。事業所名を遠くから目立つように、カラフルに大きく窓ガラスに貼り、玄関には季節行事に合わせた飾り付けをして、通行人の目を引くようにしている。事業所の活動を活発にすることを目標に掲げ、地域の行事への参加や保育園との交流、散歩での触れ合い等を通じて地域に溶け込むことを目指している。利用者へのサービスにおいては、その人らしさを大切にする理念を掲げ、陶芸教室や絵手紙教室でそれぞれの個性を生かした作品を作ったり、出身地へ出向いて思い出の場所等の写真を撮り、その写真を手書きの大きな地図上へ貼って壁に掲示し、いつでも馴染みの場所とのつながりを感じられる工夫をしている。家族へは、1年間の利用者の言葉をまとめた「みんなの言葉集」を作成して配布し、利用者の暮らしを伝えている。こうした取り組みにより、もう一つの目標である、利用者の明るい表情がみられる事業所になっている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしさを保ちながら暮らしをサポートしていく事を理念として、常にご利用者に寄り添い「聴く、姿勢にて日々のケア」に取り組んでいる。月一度のカンファレンスにおいても理念の朗読をして、再度、職員一人ひとりが確認している。	利用者が地域とふれあいながら暮らしていけることを理念に掲げ、そのための情報発信に力を入れている。理念は、カンファレンスを通じて職員が共有し、運営推進会議においても実践の状態を見てもらい、客観的な意見を聞いている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入をはじめ、当施設のイベントのご招待や、また、地域の行事参加での交流。町主催の文化展出品や、町の図書室での本・紙芝居の借り受け等でも情報交換の場となっている。	町の祭りや、文化展への出品、保育園の運動会などの地域行事へ参加し、事業所主催の敬老会や夕涼み会には地域からの参加がある。散歩の途中には近隣からの声かけがあり、玄関の飾り付けを手伝ってくれるなど、地域とは日常的に交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商店街への散歩や年間の行事などで現状の様子、また認知症の理解について取り組んでいる。ホーム駐車場のスペースをいかしてご利用者の作品等を掲示し、見ていただいている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回にて行っていた会議を平成23年4月より2か月に一度の開催にして、意見等を伺いながら施設の向上につなげている。	会議では利用者の状況、事業所の活動報告に対し、質疑や意見交換が行われている。出席者の意見により活動目標を定めたり、行事のドライブ場所の推薦や参考資料に関する助言を得るなど運営に反映している。議事内容は事業所で閲覧できるほか、家族には事業所日よりと共に送付している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護認定更新時などの機会に情報の共有を図る。また事業所便りを2か月に一度発行し取り組みについての理解をしていただけるよう発信している。	運営推進会議へは、担当部署からの参加が多く、事業所の状況が良く伝わっている。事業所だよりによる発信のほか、介護認定の相談や、町管理である事業所の施設点検などを通じて関係が築かれている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人の病院における身体拘束に関する勉強会。外部での研修にも積極的に参加し、職員の意識付けを行っている。	母体医療法人の院内研修に参加して身体拘束に関する説明を受け、事業所で資料を配布し知識を共有している。また、同病院の看護師長も日常的に来所しており、身体拘束をしないケアの実践について助言を受けながら認識を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修へ参加。日々の申し送り、カンファレンスなどにおいて職員同士の意見交換を行う。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町や社協の担当者と話し合い、必要に応じて制度の活用に努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明、外部評価の資料を添えて説明。理解、納得して頂いた上で署名・捺印をお願いしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者と話す機会をなるべく取り、ご家族との連絡、訪問時などに意見・要望を聞き対応、運営推進会議などで報告している。	利用者の要望や意向は日常会話のなかで聞き取り、家族の意見等は主として年2回の家族会や毎月の電話連絡を通して聞いている。聞いた意見は記録に残し、運営推進会議でも報告している。家族会では家族同士の話し合いを呼びかけているが、開催されてないのが実情である。	家族会へより多く参加できるよう開催日を検討したり、家族の参加しやすい行事を企画するなど、事業所運営への関心を高め、家族同士の話し合いを実現することを期待する。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場、業務上のこと、ご利用者の状態など気付いた事をカンファレンス時など意見を出し合い話し合うようにしている。	カンファレンスの時に、家族の意見への対応やケアの改善すべき点などについて、職員から意見が出されている。また、毎月の目標は職員との話し合いのうえ決め、共有している。年2回管理者等と個別面談があり、個人的な意見も言える機会がある。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、研修、資格所得など、各自のスキルアップにつなげるよう環境整備に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、外部研修の受講を積極的に行い、介護技術の向上につなげる。新人職員には個々に実技指導の時間を設けている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所と連携した合同研修会の参加。当施設と系列のグループホーム、デイサービスと交流、活動を通じてサービスの向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のニーズは何なのか！思いを受け止め不安要素を少しでも取り除くべく職員全体で把握し関わっていく。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、意見をよく聴き、事業所の対応などについて相談・話し合いの上、実行している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や、ご家族の求めに応じたサービスの提供について検討し、必要に応じて他のサービスへつなげていくなど対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりの得意分野を發揮していただき、皆で支え助け合いの中で関係を築いている。また、人生の先輩として職員からの相談にもものっていただき私達が成長させていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者と過ごす時間を多く持ってもらえるように行事への参加、協力をお願いして共にホームを支える力になっていただいている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お宅訪問にて自宅近辺や、思い出の場所、また、地域行事の参加などで、知人や友人と会い会話の中で関係を継続。	春と秋に利用者の自宅を訪問し、状況に応じて家族だけで過ごす時間や近隣の人と会う機会を設けている。また、ドライブで出身校を訪ねたり、祭りのイベント等で知人に会った際に会話することを支援し、関係の継続を図っている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりのペースを崩さず、日々のレクリエーション、創作活動を通して孤立しないよう声掛け、働きかけをおこなっている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会にうかがったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話に耳を傾け、言葉に出来ない気持ち、何げない表情を出来る限り受け止めたいとおもっております。年に一度、そんな心の声を「みんなの言葉集」として小冊子にまとめ、ご家族にお配りしております。	毎日のケアで利用者の言葉を傾聴し、行動や様子からも意向を汲みとっている。利用者が満足しているかどうかを反応で確かめ、正確に思いを把握できているか確認している。日常の何気ない言葉や素振りをまとめて小冊子にし、家族に送付して家族の関心に応えている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「よりあいハートシート」と題して、ご利用者一人ひとりの情報シートを職員全員で聞き取り作成。生活歴や、なじみの暮らし方、その他のことを記録し皆で把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、毎日変わる状態を観察しながら言葉がけをしたり見守りし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の話を聞いて一人ひとりの特徴を踏まえ、職員の気付き、アイデアを活かして介護計画を作成している。	利用者や家族からの意見、担当職員の記録、ケアマネジャーによるアセスメントなどにより、管理者、職員、栄養士等でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。現状に即し、レベルの維持を目指した計画を立て、6カ月を基本としてモニタリングを行い、変化があった時はその都度見直すようにしている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の状態・対応・結果等の記入、気づき、変化等具体的に書き込み、職員全体で把握しケアに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの相談や要望に応じ、通院支援や外出支援などに柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「清流祭り」や「だいばん」などの地域の催し物や文化展、保育園児との関わり、また、四季を感じれるようドライブなど豊かな暮らしを高めるよう支援している。今年の夏は「ほたる見物」にも出かけました。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に法人の病院の医師を主治医とし、定期的に往診を受けている。専門医に受診の場合も主治医と連携し支援。受診結果は病院やご家族から伺い、主治医とともに共有している。	入居時の説明で納得を得て、協力医を主治医としている。協力医以外の通院には家族が付き添い、緊急や必要な時は職員、看護師が付き添っている。週1回主治医の往診があり、全員診察を受けて健康管理をしている。利用者の診療内容は、記録簿で共有し、変化があった時は家族に連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師が随時訪問。看護師長が月7回の訪問にて健康管理やご利用者の状態を把握。母体法人の病院が徒歩1分の場所にあり24時間体制で支援できる体制にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いや電話で、入院先の医師・看護師・相談員等とも話し合い情報交換、症状の把握や退院時の対応など相談。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえ医師、職員、ご家族が連携を取り、その方が少しでも安楽な、穏やかな終末期を迎えられるよう支援。	母体医療法人である協力医との連携が密であり、主治医は利用者全員の状態を常に把握している。重度化や看取りの状態が近づけば、主治医から連絡があり、家族、管理者を交え話し合うことにしている。本人、家族の意向に沿い、最善のケアが行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所へ「緊急対応マニュアル」を張り出し日々頭に入れるようにしている。急変時等すぐ対応できるよう協力病院との連絡も密にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により訓練を実施。近隣住民の協力も得て避難誘導などシュミレーションを行う。	年2回の防火訓練を実施し、うち1回は夜間想定の実行を行っている。訓練では消防署の指導のもと、地域住民も交えて行っている。このほか自主防災組織の避難訓練への参加の意向もある。ただし、最新情報に基づく避難計画等がまだ十分でない。備蓄については、3日分の水、食料が準備されている。	最新の地震想定に基づく防災対策について、運営推進会議も活用しながら、地域と共に検討することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりを敬い尊重する姿勢にて、日々、言葉掛けや態度に気をつけている。	トイレ誘導等には本人の自尊心や羞恥心に配慮し、本人が嫌な思いをしないことを心がけている。排便の問いかけは、他に聞こえないよう居室で行うようにしている。本人の表情に留意し、プライドを傷つけないことを確認しながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に問いかけ、ご利用者の思いや希望を優先している。レクリエーションの中でも発言していただけるような場をもうけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、ご利用者一人ひとりのペースや思いを尊重し、傾聴しながら支援するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋にブティックハンガーを置き、ご自分でその日の服を選ばれる方もおられる。行事の際にもお化粧品など手伝い気分転換。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	小さな菜園場で野菜を作り食卓にのせている。調理の準備や下膳など、できる事を職員と一緒に行っていただき一緒に食事をして会話を弾ませている。	昼食は母体医療法人の管理栄養士が献立し、夕食等は食材を含め業者委託メニューを選択している。自家栽培の旬の野菜を使用することもある。利用者は野菜の簡単な下ごしらえや、テーブル拭き、片付けなど、できる範囲の手伝いをし、職員と一緒に会話しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士が月2回訪問し、一緒に食事をする。また、カンファレンスにも出席してもらい、その方に応じた支援の方法を医師・栄養士からいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、ご本人の習慣などを踏まえて個別に声掛け・見守り。必要に応じて介助をし、清潔に努めている。また、義歯の方もポリドントを施行。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間や習慣を把握し、その方に合った支援をしている。	利用者の排泄傾向を把握し、動作から判断してトイレ誘導を行い、排泄支援を行っている。利用者は紙パンツにパッドの使用者が多く、誘導なしで自力でトイレに行ける利用者が6名いる。オムツ使用の利用者はなく、現状の維持に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取。散歩や屋内での歩行を促すなど便秘予防・改善に向けた支援を心がけている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分の希望の入浴日を決めている。ご利用者には確認して対応。身体の状態を見て入浴が必要と思われるご利用者には声掛け、入浴していただき清潔を保てるように支援している。	利用者の希望に応じて、週2～3日の入浴ができています。体を動かしたくない等の理由で入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを工夫し、清潔を保つ必要がある場合は、清拭や足浴で対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は天気や体調により、なるべく、外気浴や散歩など外に出られるよう支援。体の状態に応じて昼寝などもしていただく。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師からの服薬情報の共有。薬局からの薬剤情報で効能・注意事項を確認。処方が変わると連絡帳を利用したり申し送りなどで職員間でご利用者の状態の情報交換などに気をつけている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、少しの時間でもとレクリエーションや創作活動にチカラを入れている。ご利用者も「次は何をするの？」と興味を持ち作品作りを楽しんで下さっているようです。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出の頻度はかわるが、春や秋の過ごしやすい時には外の風を感じられるよう散歩・外気浴・ドライブと積極的に行っている。また姉妹施設での夕涼み会等では、ご家族・地域の方にも声掛け、参加していただいている。	外出と外気浴を目標にも掲げて、気候のよい時は散歩やドライブ等に力を入れている。外のベンチに行きやすいよう、玄関に椅子を設置して一休みできるよう工夫し、散歩は安全のため一人ずつ同行して信頼関係につなげている。ドライブは運営推進会議でも意見を聞き、季節に相応しい場所を選んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、ご利用者が金銭管理をしたり、買い物・銀行へも希望時には同行し、見守りながら支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けてもらったり、暑中見舞い・年賀状と、やりとりしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁や玄関に季節を感じられる装飾を、ご利用者と一緒に作成し展示している。	毎月、利用者と一緒に季節の飾り付けを作り、共用空間に季節感を出すようにしている。また、利用者の出身場所で撮影した写真を、大きな手作り地図に貼って掲示し、利用者が互いに馴染みの場所を思いだせる工夫をしている。そのほか利用者の動線上に椅子を配置して、利用者が休みながら移動できる配慮がされている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外のベンチや玄関先の長いす、ローカにも椅子を設置し、まどろみの空間も確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただき、ご本人の使い勝手のいいように配置。カードや写真など好みに合わせて壁にはったりと個性のある居心地のよい空間を工夫している。	居室は絵手紙や陶芸教室で作った作品や、家族等の写真が置かれ、カレンダーなどで生活感を出すように支援している。家族からは馴染みの物の持ち込みの相談もあり、その人らしい暮らしができる居室にしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自立した生活ができるよう、その方に応じた環境整備に努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				